

# OBOGの キャリアデザイン



株式会社CBCテレビ  
アナウンサー

## 柳沢 彩美さん

愛知淑徳大学現代社会学部現代社会学科 第12回卒業(平成21年度卒業)。愛知淑徳高等学校に入学し、学業と両立しながらバントワーリング部の活動に熱中。学園祭などの学校行事にも仲間と共に全力を注いだ。愛知淑徳大学現代社会学部へ進学し、マルチメディアを研究テーマとするゼミに所属。卒業後は株式会社CBCテレビにアナウンサーとして入社。報道番組やスポーツ情報番組などのキャスターを担当し、地域に密着した情報発信に努めている。

## アナウンサーとして 走り続ける根底にあるのは、 全力投球の学園生活。

### ◆部活に、学園祭に、 仲間と淑徳魂を燃やす。

愛知淑徳で過ごした高校3年間、大学4年間は、勉強・部活・学校行事などに仲間と一緒に「意欲的に取り組んだ」とても「濃い」学園生活でした。

最も熱中したのが、高校時代のバントワーリング部の活動。厳しい練習にも休みなく参加し、まさに部活一色でした。全国大会への出場をはじめ、愛知淑徳学園創立100周年記念イベントや愛知万博での演技などにもチャレンジ。毎日積み重ねた努力が、たくさんの人たちの笑顔につながることを実感しました。さらに、チーム一丸となつて



高校2年生の冬、バントワーリング部の全国大会に出場。金賞をめざして仲間と切磋琢磨し合う姿勢は、部の伝統として受け継がれている。

最高の演技をめざすなかで、責任感や協調性が磨かれたと思います。一人ひとりが持つバトンには、自分の名前だけでなくメンバー全員の名前を記入。それが最後まで頑張り抜くお守りになっていました。

また、学園祭にも燃えました。高校3年生のときはクラスで演劇に挑み、脚本、監督美術、照明、キャストなどそれぞれが全力投球。意見をぶつけ合い、試行錯誤を重ね、いいステージをつくらうと皆が真剣でした。

このように何事にも力を尽くしたからこそ、仲間と強い絆を築き、進学や就職など自己実現に向かう力を得ることができました。本気で頑張った数々の経験が、今も私にとって成長やキャリアアップの糧になっています。

### ◆メディアを専門的に学び、 アナウンサーの道へ。

高校生の頃からテレビの仕事に興味があった私は、愛知淑徳大学のオープンキャンパスで学内の本格的なスタジオや機材を目にし、現代社会学部(現・メディアアプロデュース学部)への進学を決意しました。

在学中は、メディアアテレフィーや映像制作などの多様な授業を履修し、「情報の送り手・受け手」の両側からメディアを幅広く学びました。印象深いのは「音声表現」や「日本語表現」などの授業で、美しい発音や言葉遣いの習得に励んだことです。ラジオ番組の制作にも取り組み、現場の臨場感を声で伝えることのおもしろさを体感しました。

2年次からは、マルチメディアを専門とするゼミで映像制作などに打ち込むとともに、テレビ局への就職を見据えてキャリアセンターを活用。早い段階から採用試験対策を進めたため、試験本番では落ち着いて自己PRができました。そして、晴れてアナウンサーの道

へ。面接官の方に言葉遣いを評価していただき、大学で得た表現力や発信力などを実社会で発揮していく意欲がいつそう高まりました。

### ◆地域のひとと人をつなぐ メディアをつくりたい。

視聴者の皆さまに、テレビやラジオをより身近に感じていただきたい。地域の誰もが情報の発信者になれる、主役になれる、人と人をつなぐメディアをカタチにしていきたい。そうした思いのもと、地域の人々の生の声や旬の情報を真心込めて届けていきたいと日々考えています。アナウンサーとなつて5年目、生まれ育った名古屋、東海三県で働けることに感謝しながら、今後も自分の可能性に挑戦し続けます。その底力となっているのが、愛知淑徳で培った淑徳魂です。先輩の皆さんも、今、取り組んでいる勉強や活動に全力を注いでください。頑張り抜いた経験はやがて自分の誇りになり、将来にも活かされますよ。



さまざまな視聴者がさまざまな思いを考えて情報を受け取っていることを常に意識。ニュース原稿の下読みを入念に行い、正確に、公平・中立に伝えるよう努める。